

株式買収防衛策継続について

新報国マテリアル株式会社
代表取締役社長 成瀬 正

株主の皆様におかれましては、平素からのご高配に厚く御礼申し上げます。

2023年3月の株主総会において買収防衛策導入を株主の皆様にお諮りしたところ、98.58%という高率でご支持いただき誠にありがとうございました。

現行の買収防衛策の有効期間は、本年株主総会終結の時までとなっており、その継続を来る3月27日の株主総会にてお諮りすることについて、株主の皆様には私自身の考えをご説明申し上げます。

1. 買収防衛策継続の私の思い

当社は2029年創立80周年を迎えます。これに向けて売上100億円という野心的な中期目標を掲げました。

一昨年の売上62億円に対し昨年は55億円と減少し、本年は60億円に回復するものの、民生品向けシリコンウエハが回復せず、FPD関連も踊り場となり、半導体製造装置関連のみ増加の状況ですが、来年以降、民生品向けシリコンウエハの回復、FPD関連も新興国向け市場の開拓等により着実に成長が見込まれ、AI関連は更に増大するものと考えられます。

しかしながら、売上100億円達成のためには何としても新規拡販が絶対条件です。

そういう中で、悲願である海外欧州半導体メーカーへのインバー合金の参入の努力を10年にわたり地道に進めて参りましたが、昨年ようやくサンプル出荷に漕ぎつけました。正にこれからが正念場です。

また水素関連ではマイナス269℃でも縮まないインバー合金「IC-DX」の採用に向け数社と実用化実験を行っています。さらに400℃の高温でも低膨張性を発揮するインバー合金「VIC-65」を用いた熱可塑性CFRP金型の展開も進めており、これから3年が当社にとって勝負の期間と言っても過言ではありません。

中期目標に向かって全社一丸となって邁進することが当社企業価値最大化への道であり、私としては外乱要因にエネルギーを費やすことなく全身全霊を経営に打ち込みたいと考えております。

また海外拡販を進める中で、当社のようにマイナス269℃から400℃までの低膨張合金を製造できるメーカーはなく、今後、半導体、航空宇宙分野で低膨張合金のニーズが高まると考えられることから、我が国の経済安全保障の観点からも買収防衛策の継続は必要だと考えています。

2. IR及び資本施策

前回の株主様アンケート等で色々ご教示をいただきました。まだまだ十分ではございませんが、今後ともIRの強化及び資本施策を進めて参ります。

実施したIR及び資本施策

- (1) IRを強調したホームページの改定
- (2) Web-IRの実施
- (3) 自己株買いの実施
- (4) 株式の株式流動性を高めるための株式分割

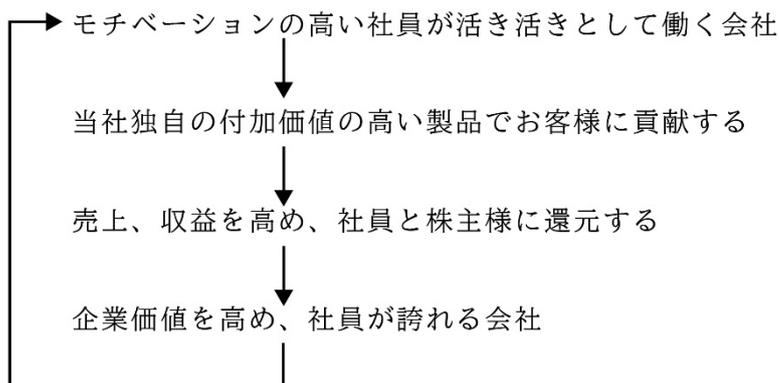
今後実施を考えている項目

- (1) Web総会の実施
本年は株主総会の事後のWeb配信。最終的には株主様がWeb参加できる総会の実施。
- (2) Web-IRの実施
- (3) 必要に応じた自己株買いの実施

3. 私の社長としての信条

- (1) 謙虚に学び、人の話を聞き、自分の頭で考え、納得したら実施する。
 - (2) 責任感を強く持ち、胆力を鍛え、決断する。
 - (3) 社員から信頼される。
 - (4) 社員をリスペクトする。
 - (5) 我社は技術力の会社であり、技術の原理原則を理解する。
 - (6) 複式簿記を理解し、財務の本質を掴む。
 - (7) 株主様、お客様、取引先様から信頼されるよう努力する。
 - (8) 体を鍛え、気力を充実させ、智力を高める。
- 以上に加え、
- (9) 日本の製造業復活を小さいながらも、その一翼を担う。

4. 私の目指す会社



以上、縷々申し上げましたが、今後も株主の皆様の貴重なご意見に耳を傾け、より良い会社にするべく努力して参りますので、ご支援ご指導の程、よろしくお願い申し上げます

2026年3月5日